



相変わらずどうしようもない泥沼のような作業が続いている。働いても働いても借金を返すだけでつまらないものだ。そんな中でも決まったことは次々とおこなわなければいけないが、今日からビックサイトで行われる環境緑化フェアへの出展で昨夜は展示スペースの設置に行ってきた。前日からの徹夜仕事の後でぼーっとして行ったが、巨大なスペースは灯りがこうこうと灯り、すでに各メーカーさんたちの出展準備が整いつつあって、友人と3人、車で展示場の真中まで乗り入れたのはいいが、どこが私たちのスペースかもわからない。ようやく見つけたのが、床にテープで四隅だけしるしをつけた跡だけだった。なーんにもないのであって、周囲のメーカーさんたちの気合の入った展示から見るとただの吹けば飛ぶような空き地。よくテープが剥がれ落ちずに残っていたものだ。まあ、余った所を利用していただいているのだからそうではあろうと予測はできていたが、今はそんなことは言っておれない。明朝からお客さんたちが来るのである。さっそく机を4つとパイプい椅子を借りてきて、車から、主に100円ショップで買い集めた用具や、展示物を下ろして、設営にかかるが、ダンボール4箱程度で何ができるのかと思うと余計に氣勢があがらない。しかしまあ、始めてしまえば周りのことは気にならなくなって、ああでもないこうでもないと話し合いつつどうにか格好がついてゆく。一番目立つのは、安物のヨシズで、こいつを何とかビニール紐などを捜してテーブルを支えにして立てまわすと、なんとなく展示ブースという雰囲気は出てくるのであって、持ってきたテント式の簡易便所を建て、バングラの模型を組み立て、人工芝をピラッと広げて写真をヨシズに掛けると、おー、なんと言うことか回りの近代的、豪華展示スペース群と肩を並べて勝負が出来る(かどうかわからないが)われわれの超最貧戦線が浮かび上がってきたではないか。なんとなく、六本木ヒルズの一角に幟端を立て並べた蜘蛛の巣砦といった雰囲気であるが、いいのである。明日からわが陣営はここにたてこもって、水の浄化だ、便所だ、うんちだ、おしっこだ、世界遺産だ、エイズだなどと問い掛けてゆけばいいのだ。会場にしたって、こういう真摯な訴えの出来るスペースがあることは、金にはならないだろうけれども対外的にもよいことなのだ。

「最貧戦線といった雰囲気ではあるけれども、エコではあるしいじゃない。」さて、明朝本などを持ってきて並べればいだろうから今夜は終了。」「終了って、何？、もしかして二人は途中でご苦労さんって一杯飲んで、車の私は一人で帰って言うこと？。」「当たり前！。」と言ったが、それは即座に却下されて、また夜の東京湾岸の明かりを眺めながら車でスタート地点へ。結局いつもの中華屋で「このワカメサラダは本当に髪にいいんだろーか。」「いやー僕は子供のころは科学者になる予定だったんですよ。先生にそういったら、何の科学者？って言われて絶句したけど。」「鉱石ラジオって夢があったなー、どうしても鳴らなかったけど。」「・・・とにぎやかに更けてゆく。運転してくれた彼は結局ウーロン茶でこっちは二人とも生ビールを4杯位づつ飲んだが、なんだか割り勘は同じで、EVAとJADEのテキヤ3人組はそれぞれの方向によろよと帰っていった。

しかしふらふらしてもいられない。もうすぐ町会の役員会なのだけれどもまだ役員が決まりきっていないが、副会長さんや総務の方々がきちんとやってくれているからまあ、頼りにさせてもらっておこう。ここで会長(私の事)が変にうろろしてもどうなると言うもんじゃあないしなー。目の前のことに一つづつ落ち着いて、出来る範囲で対処していくしかないなー。しかしそろそろ職安にでも行って金になる働き口でも探さないといけないと真剣に考えないとなー。困ったことだなー。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com

